

ニャンドゥティ体験と講演会

day 01



7月12日(金)・13日(土)と2日間にわたり、あづまプラッツ主催でニャンドゥティ体験と講演会のイベントを実施しました。
あづまプラッツでは、以前から新しい取り組みへのチャレンジへの希望が出ていたこともあり、今回あづまプラッツとしては初めて外部からの講師をお招きして体験型のイベントにチャレンジしました。
今回、講師として大阪から千森 麻由(ちもり まゆ)さんをお招きしました。

千森さんは、和歌山市出身で、通信制高校を卒業後、世界一周の旅に出て、パラグアイにてニャンドゥティと出会い、その後7年に渡りパラグアイに通い続けニャンドゥティを学び、現在は日本国内にてニャンドゥティレッスンなどの普及活動を行っています。

また、ご自身としては、中学校の時に不登校経験、その後ひきこもり経験、「生きづらさ」を感じながら生きてきた経験をお持ちで、今回12日にニャンドゥティレッスンを、13日に講演会という日程で新宮に来ていただきました。

「ニャンドゥティ」…ほとんどの方は初めてお聞きする単語かと思いますが、南米パラグアイの伝統的手芸のレース刺繍で、現地の言葉で「蜘蛛の巣」を意味するそうです。

カラフルな糸を使用して細かいながらも色鮮やかな作品には、参加者一同が一瞬で心を奪われました。

とても複雑でこんなの作れるはずがないと思いますが、体験が始まってみると作り方はとてもシンプルで、刺繍が初めての方でも要領さえ分かればサクサク作ることができました。

不器用な男子も交わり、わいわいと騒ぎながらの体験ではありましたが、普段「居場所」を利用するときに、賑やかな場面で苦手で個室で過ごすことが多いメンバーさんが、体験中ずっと一緒に過ごせたことがスタッフとして嬉しい限りでした。

ニャンドゥティは「刺繍のように刺し、織物のように模様を紡ぐ」という先生の言葉もあり、居場所にてメンバーと一緒に糸を選び、あまりの不器用さに苦笑いをされながらも、たくさん笑顔を見ることのできた1日であり、これまでになかった支援を「紡ぐ」ことができたとてもいい体験となりました。



施設長 南 芳樹

day 02

翌日の講演会では、「世界はカラフルに満ちている～ひきこもりからの世界一周～」をテーマに、これまでに千森さんが経験された体験談を中心にお話をいただきました。

世界中の写真や南米でのニャンドゥティとの出会いなど、順風満帆に自分のやりたいことを見つけて全力で楽しんできた。というように聞こえますが……から始まったご自身のこれまでの経験。幼少期からの両親からの虐待、ネグレクト、学校でのいじめ、すべてが壮絶なエピソードであり、「家にも学校にもどこにも自分の居場所がなかった」「自分には何の価値もなく、誰からも愛されていなかった」「自分が望んだことはただ1つ、自分を愛して認めてほしかった」という心の叫びには、参加者全員の心を揺さぶる話となりました。

ご自身の経験から、今現在、苦しいと思っているご本人や同じように苦しんでいるご家族の方に対する優しく温かいアドバイスも伝えていただき、前向きになれた瞬間とは「自分で自分を認められたとき」が自分の生きづらさが解消できたと語っていただきました。

前日の体験でも、同じ工程の同じ説明であっても1人1人に丁寧に接して説明をしてくれ、どこまでも他人にもご自身にも真摯に向き合っておられるお姿が、私自身1人の支援者として支援の原点を振り返ることに繋がったと感じました。

千森さんにはスタッフ一同から感謝申し上げます。

※余談ではありますが、あづまプラッツには強烈な雨男・雨女のスタッフが揃っており、イベント当日にはなんと大阪から新宮間の電車を止めてしまうほどの大雨を降らせました。結局は和歌山まで迎えに行くなどのドタバタ劇となりましたが、終わりよければすべてよし精神で無事に終了できたことを嬉しく思います。

